

「式辞」

一雨ごとに暖かくなり、本格的な春の訪れが間近に感じられるこの良き日に、晴れの門出を迎えられた三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

まず初めに、ご来賓の方々にご挨拶を申し上げます。本日ここに、第七十二回卒業式を挙行いたしましたところ、公私何かとご多用の中を、多数の皆様方にご臨席賜り、卒業生の前途をお祝いくださいまして、誠にありがとうございます。また、平素より本校の教育活動に深いご理解と多大なるご支援を賜りまして、重ねて心より厚く御礼申しあげます。「ありがとうございます。」

さて、今ここで義務教育九年間の修了を意味する卒業証書を授与された七十二期生の皆さん、今日からは、この伝統ある矢田中学校の卒業生として誇りを持って歩んで行ってください。君

たちが生きていくこれからの時代を思うとき、近年繰り返される地震や豪雨などの自然災害により得られた教訓を、改めて考えてみたいと思います。災害では多くの命が失われ、失われた命の数だけ多くの教訓が私たちに残されました。自分を守ることに、家族や友とのつながり、地域の絆など、「命」を守るために何が大切か、多くの教えがそこにはあります。矢田中学校では、三年間を通して地域とともに命を守る「防災学習」を積み上げてきました。その学びは、今後必ずやって来る、「南海トラフ大地震や大和川の大氾濫」で、君たちや君たちの大切な人を、守るために役立つことでしょう。また、「いじめ」や「差別」を許さない取組として学んだ「人権学習」は、これからの社会で、人と人をつなぐ大切な役割を担う人材として、君たちを生かして行くでしよう。多くの仕事がAIや、ロボットが担う時代になっても、人を思いやることに

よって生まれる「人間」の営みは、絶えること
はないのです。卒業に際し矢田中学校での学び
をもう一度、自らのものとして確認しておいて
ください。

皆さんと私の出会いは二年前、中学二年生の
春でした。幼くけんかやトラブルの絶えない毎
日でした。その皆さんが、様々な行事や人との
かかわりの中で、大きく成長していきました。
修学旅行で過ごした民泊での経験、部活動での
頑張り、とりわけ団結力を示した体育大会など、
走馬灯のようによみがえってきます。三年生の
文化祭では、学年全員が協力して素晴らしい創
作活動に取り組みました。ファイナーレの感動は、
今も先生の心に焼き付いています。そして、皆
さんは矢田中学校に大きな財産を残してくれま
した。それは、『いじめを許さない矢田中三原則』
です。生徒会や学級会での話し合いを重ね、三
つの約束を採択しました。一つ、『自分の感情で

人や物を傷つけない』二つ、『人を見下さず、対等な関係をつくる』そして三つ目は『一人一人の個性を認め合い、偏見の目を持たない』という約束です。これこそ先生の願いを言葉にしてくれたもので、君たちが社会で活躍し認められていくうえでも、大切な約束になると思います。もう一度自分の心に刻み込んでおいてください。

お別れに際して、南アフリカの人権活動家、ネルソン・ホリシヤシヤ・マンデラ氏の言葉を送りたいと思います。それは「生きるうえで最も偉大な栄光は、決して転ばないことにあるのではない。転ぶたびに起き上がり続けることにある。」という言葉です。マンデラ氏は、アパルトヘイト人種差別政策に反対し二七年もの間牢獄に閉じ込められました。投獄中も活動を続け、ついには暴力を使わずに民族の融和を成し遂げ、第八代南アフリカの大統領となりました。そして差別政策であるアパルトヘイトに終止符を打

ったのです。君たちが進むこれからの人生にも様々な困難が待ち受けていることでしょう。その壁の前に時には挫折を味わうかもしれません。しかし、くじけず立ち上がり続けることで、次に進んでいけるのです。自分をあきらめることなく努力を続ける人に、必ず道は開けます。君たちの未来に幸多かれ！「ご卒業おめでとうございます。」

最後になりましたが、卒業生の保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。人生で最も多感で、しかも著しい成長期にあるお子様が卒業証書を受け取られた姿をご覧になり、感慨もひとしおかと、ご推察申しあげます。お子様たちは、この三年間で人の気持ちを思いやれる立派な人間に成長したと確信しております。表現が下手な子もいるとは思いますが、ここまで育ててくださった保護者の皆様への感謝の気持ちは、どこの中学生にも負けないと思います。そ

んな熱い気持ちは今しつかりと受け止めてあげてください。また、この三年間、本校のために多大なるご支援、ご協力を賜り、全教職員になり代わりまして、あらためて厚くお礼申しあげます。「ありがとうございました。」

では、卒業生の皆さん。いよいよお別れのときが来ました。健康に十分注意して、矢田中学校での三年間を誇りとし、大いに活躍されますよう、心よりお祈りして、「式辞」といたします。これからもそれぞれの道で頑張っていてください。

平成三十一年三月一四日

大阪市立矢田中学校長 西川 祐功